



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島司教区 電話099(226)5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行 教区広報部 1部60円年間訂共1100円



# 新しい顔触れでスタート 教区の役職・担当決まる

四月十一日(火) 司教就任以来初の司教評議会を招集した郡山健次郎司教は、教区の役職・担当について同評議会に諮問、教区が機能的に働くために設けられる役職担当のメンバーを決定し、四月十八日(火)開催の定例司教評議会、年間行事予定とあわせて発表した。

- 当は次の通り(敬称略)
  - 司教評議会 郡山健次郎(会長)、小川靖忠(副会長)、中野裕明(事務局長)、泉浩二、寝占敦之、頭島光、大松正弘、内野洋平、J・サンタマリア、小
  - 教区顧問団 田原章、頭島光、J・サンタマリア、寝占敦之、小川靖忠、美島春雄
  - 教区本部事務局 中野裕明(事務局長)、会計部 中野裕明(部長)、森章子 広報部 中野裕明(部長)、山下眞二(次長・編集長)、久保直基
  - 「宗教法人カトリック鹿兒島司教区」責任役員会 郡山健次郎(代表役員)、田原章、寝占敦之、美島春雄、小川靖忠(以上、責任役員)
  - 教区裁判所 永山幸弘(法務代理)、J・ハンマ(裁判官)、田原章、竹山昭(以上、絆の保護官)、J・サンタマリア

## 小宿教会に着任 ホルへ神父

この春、高松教区から出向の形で小宿小教区に着任、鹿兒島教区の宣教師に協力してきているホルヘ・ソーザ神父。ニカラグア出身、三十三歳。叙階三年目の若々しい、パワーたっぷりな司教である。

鹿兒島への赴任については、日本語の心配があっただけでまったく抵抗はなかったという。また赴任先の小宿は、奄美の気候が祖国ニカラグアに似ていることもあって、とてもお気に入り様子。「今は奄美のことで頭がいっぱ



い」と話す。心配なのは、温かい奄美の人たちとの交流で体重が増え始めたこと。同じく高松教区から派遣されているベルナルディーノ神父から「太ったな」と言われ、奄美の信者たちとの温かい交流を自慢するホルヘ神父である。

- ア、中野裕明(公証官)
- 検閲者 竹山昭
- 「委員会」(※カッコ内に委員長のみ掲載)
- ①教区典礼委員会(頭島光)
- ②教区墓地委員会(中野裕明)
- ③信仰養成委員会(郡山健次郎)
- ④終身助祭委員会(竹山昭)
- ⑤カリキュラム委員会(末吉卓也)
- 「担当司教・助祭」(※カッコ内に責任者を掲載)
- ①青少年司牧(泉浩二)

## 教区目標に代わって会議で示された 日ごとの成長への願い

四月十一日(火)に開かれた定例司教評議会、司教たちから司教に向けられた質問の中に「教区のビジョンは何か」「今年の教区目標は何か」があった。この質問に答えた郡山司教は、それらに今のところ大きな課題を掲げることを選定しないことを明言。「信者に一日一日をどのように生きるべきか模索して欲しい。信者一人ひとりが成長することで教区がよりよい方向に歩むと信じている」と述べた。

これに関連し司教叙階

### 5月21日は「世界広報の日」

五月二十一日の「世界広報の日」を前に教皇ベネディクト十六世は、神の計画に従って「敵意」という隔たりの壁を壊し、愛の交わりを築こうと呼びかけるメッセージ「コミュニケーション、

ディア自体の担う責任にも言及し、メディアが対話のための「偉大な円卓」を提供する一方で、創造的な才能や物事を全体的に考える注意を弱め、文化的風習が持つ特異性や宗教的信仰が持つ独自性を軽視してしまう「文化の画一化」の危険性があると指摘した。

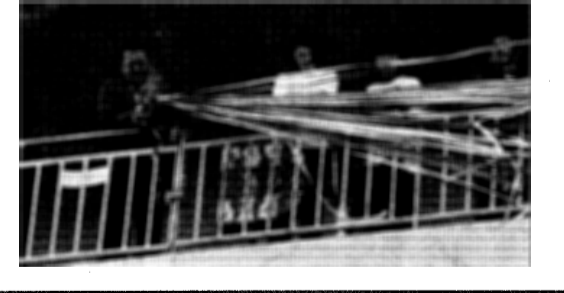


貴島さん(聖心教会) 大神学校へ

この春、福岡のサン・スルピス大神学院に教区神学生として、名瀬聖心教会所属の貴島丈弥君(二十九歳)が入学した。「新しい世界で、覚えることも多いが徐々に慣れてきた。一緒にいるティエン助祭のおかげで心強い」と神学校生活について語ってくれた。

### 行ってらっしゃい! お元気でいらっしゃい! よろしくね

4月初旬、教区各地で司祭の異動によるたくさんの別れと出会いがあった。どの見送りも出迎えも心温まるものとなった。【写真は船で大島に向かう末吉卓也神父】



### YET!

物があふれている時代と言われる。中流意識を持って生活している日本人が多くなったとも言われる。二〇〇四年にノーベル平和賞を受賞したケニアの副環境相ワンガリ・マタイさんは日本の美徳「もったいない」に心ひかれ、この言葉を世界に通じる環境標準語にしようと訴えている。教区本部にもそんなマタイさんのように無駄な物をそぎ落とし、物を大事にしようとする人がいる。新しい教区のリーダーだが「しばらく車のない生活をしてみる」と、もっぱら公共の交通機関を利用して楽しそうに動き回っている。「人は少し不自由を感じるぐらいがいい」とも。▼事務所が以前より少し暗くなった。理由は車に乗らず、買うなら軽自動車と決めた長とその信者たちが電灯を消して回るからだ。「その程度で逼迫している教区財政が変わるのか」との声も聞こえそうだが、何にでも一歩ずつチャレンジするリーダーの動きは小気味よい。

# 動き出した鹿児島司教区 2006年4月現在



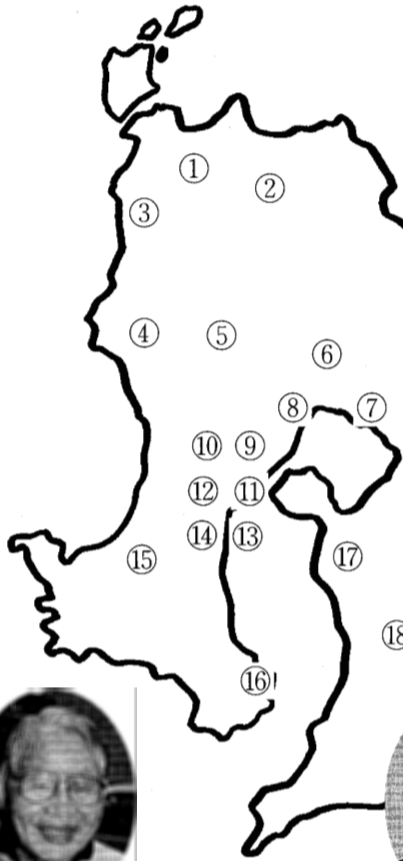
郡山健次郎司教



糸永真一司教



長崎恵の丘  
田辺 徹神父



③阿久根教会  
山口重義神父



②大口教会  
レヒナ神父



①出水教会  
大松正弘神父



⑨吉野教会  
牧山田一神父



⑧始良教会  
マリン神父



⑦国分教会  
国原武志神父



⑥マリア山荘  
永山幸弘神父



⑤入来教会  
アッシャー神父



④川内教会  
ハンマ神父



⑭谷山教会  
ムイベルガ神父



⑬鴨池教会  
木村敏彦神父



⑬鴨池教会  
小川靖忠神父



⑫紫原教会  
竹山 昭神父



⑪ザビエル教会  
松森孝郎神父



⑪ザビエル教会  
美島春雄神父



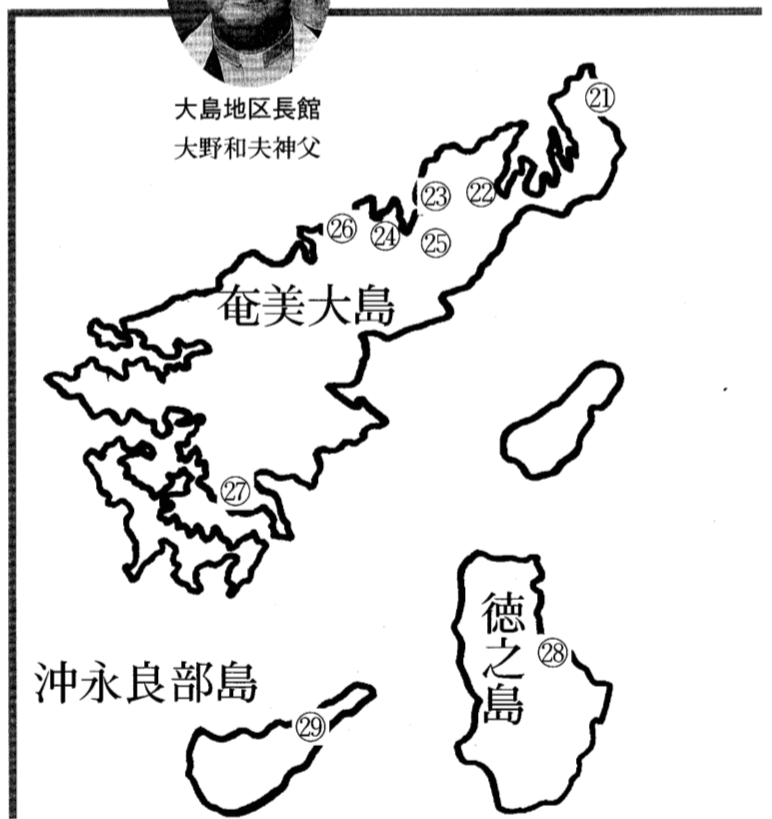
教区本部  
中野裕明神父



⑩玉里教会  
サンタマリア神父



大島地区長館  
大野和夫神父



⑭谷山教会  
有馬信茂神父



⑭谷山教会  
フリチェル神父



⑭谷山教会  
頭島 光神父



⑱鹿屋教会  
東 研神父



⑱鹿屋教会  
ヴィゴロ神父



⑰垂水教会  
田原 章神父



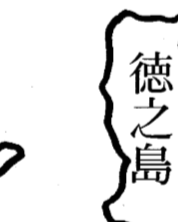
⑯指宿教会  
寝占敦之神父



⑮加世田教会  
泉 浩二神父



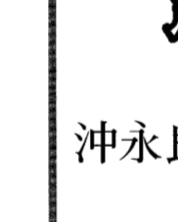
⑳徳之島



㉘母間教会  
ハナス神父



㉘母間教会  
福崎英雄神父



㉗古仁屋教会  
橋口啓悟神父



㉗古仁屋教会  
柳本繁春神父



㉚瀬留教会  
末吉卓也神父



㉙大笠利教会  
内野洋平神父



㉚種子島教会  
ベルナルディノ神父



㉙志布志教会  
松田清四朗神父



㉙和泊教会  
メニヒ神父



㉘母間教会  
ハナス神父



㉘母間教会  
福崎英雄神父



長浜研修所  
岡 俊郎神父



㉗古仁屋教会  
柳本繁春神父



㉚小宿教会  
ホルヘ神父



㉙古田町教会  
浜田盛茂神父



㉙古田町教会  
瀧 憲志神父



㉚名瀬教会  
小隈憲士神父

# 晩酌前にごミサはいかが!

## —毎晩の司教ミサへのお招き—

「仕事帰りにミサにあらずかって、疲れた心を癒しませんか」と訴えるのは、何を隠そう郡山健次郎司教。鹿兒島市の繁華街近く(照町)にあつて付近に会社も多い鹿兒島カテドラルだからと、会社帰りの人をターゲットにした模様。これまで毎週水曜日夕方、カテドラルの小聖堂で竹山神父によつてささげられてきたミサを引き継ぐように、そしてそれを拡大した形での実施を決意した。

「会社帰りの人たちには午後六時半がよいのでは」「毎日あつた方がよいのでは」との意向でミサの日時が決められた。しかも司教不在時には、ザビエル教会と本部勤務の司祭の手を借りても続けていく覚悟だ。

「ゆるしの秘跡」はこれまで通り、ザビエル教会と本部の司祭の協力を得て、水曜日の午後五時半からミサまでの時間にある。「仕事で疲れた体を晩酌で癒す前に、その心をミサとゆるしの秘跡で癒しませんか」。ちよつとほのかな光の差し込むカテドラル小聖堂で司教が「お疲れさま」と声をかけてくれる。

### +KABAYAN SEKSIYON+

#### "Ang tungkulin ng tao para sa Diyos"

Ang unang bahagi na tinalakay natin ay tungkol sa "Pagnais para sa Diyos". Ngayon ang pangalawang bahagi ay ang tungkol sa "Paraan ng pagkilala sa Diyos". Ang tao ay nilikha na kawangis ng Diyos at siya'y tinawag na kilalanin at mahalina Siya(Diyos), ang taong humahanap sa Diyos ay natutuklasan ang isang paraan na makilala Siya (Diyos). Ito rin ang tinatawag na pagpatotoo para sa pag-iiral ng Diyos, hindi sa katuwiran ng siyensiya natural, subalit sa sentido ng "katunayan at papaniwalaan na katuwiran", na kung saan tayo ay nakakasiguro tungkol sa katotohanan. Itong "paraan" na paglapit sa Diyos buhat sa nilikha ay may dalawang punto ng pag-alis: ang mundo na pisikal at ang taong pagkatao. Ang mundo: mula sa paglalaw, pagiging pangyayari at ang kaayusan at ganda ng mundo, na ang isang tao'y pwedeng makilala ang Diyos bilang pinagmulan at katapusan ng daigdig. Sabi nga ni San Pablo sa mga hentil: Ang kanilang pagkakilala sa Diyos ay simple lang, dahil ipinakita ng Diyos sa kanila kahit mula ng likhain ang mundo ng kanyang naturang di maaring makita, halimbawa, ang kanyang kapangyarihan na walang hanggan at ang pagka-diyos, ay malinaw na makikita sa mga bagay na ginawa. Sabi rin ni San Agustin: katanungan sa kagandahan ng mundo, ng dagat, ng hangin, ng langit at katanungan sa lahat ng katotohanan. Sagot ng lahat: "Tingnan, lahat tayo ay maganda". Ang kanilang kagandahang ay isang pagpahayag. Ang lahat ng kagandahang ay maaring magbago. Ngayon sino ang gumawa sa kanila, kundi ang "Pinakamaganda" sa lahat na kailanman ay hindi magbabago? "Dahil sa kamaharlikaan at kagandahan ng mga kinapal, hinihinuha natin na ang Lumikha sa kanila ay lalong dakila at kahanga-hanga". (Wis 13:5). Ang tao sa kanyang pagiging bukas sa katotohanan at kagandahan, ang kanyang sentido ng kabutihang aral, kalayaan at ang boses ng konsensiya, kalakip ng kanyang pagnanais para sa hangganan at kaligayahan, ang tao ay nagtatanong sa kanyang sarili tungkol sa pag-iiral ng Diyos. Ang mundo at tao ay nagpapatunay na mayroon sila sa kanilang kaibuturan ng pinagmulan at katapusan, subalit sila ay nakikiisa sa Maylikha, na walang pinagmulan o katapusan. Kahit na ibat-ibang paraan, malalaman ng tao na mayroon pag-iiral ng katotohanan, na siya ang unang sanhi at katapusan ng lahat ng bagay, katotohanan na "tinatawag ng lahat 'DIYOS'". Malalaman ng tao ang katotohanan na ito dahil ang Diyos mismo ang nagpahayag sa kanya sa pamamagitan ng pananampalata ya. Pagpapatunay sa pag-iiral ng Diyos.

### 運動会で遠足で

#### 復活祭に信徒が楽しく交流

復活祭には信徒間の親睦を図ろうと各小教区で様々な催しがあつた。奄美大島地区では昨年

に引き続き、全島からの信者たち六百人が浦上教会(大熊小教区)庭に集まりミサをささげ、その後の運動会で汗を流し交流した。また本土地区では鹿兒島市内教会を中心に、それぞれの教会でミサをささげた後、約三百人が祇園之洲公園ザビエル上陸記念碑前に集まり昼食のひと時を楽



奄美大島での運動会

あつちこつちミサ 全国の青年のつながりを意識しさせられる「あつちこつちミサ」が今年も各地で行われる。福岡教区の青年たちのよびかけにに応じ、教区内でも川内教会青年会と純心大学学生サークル「セントメアリーズハート」が準備を進めている。場所は川内教会。開催日は五月二十一日(日)午後三時。ミサ後は交流会も行われる。

### アジアユースデー

今年七月二十九日から八月五日まで香港で行われるアジアユースデーに、教区からは貴島丈弥神学生が参加することになった。

- 3日(水) 聖フィリポ 聖ヤコブ使徒 復活節第四主日(世界召命祈願の日)
- 8日(月) 聖サベリオ宣教会黙想会・12日まで
- 11日(木) レジオマリエ鹿コミチウムのアチエス・玉里教会
- 14日(日) 復活節第五主日
- 15日(月) 教区財務委員会・教区本部・14時
- 16日(火) 定例司祭集会・教区本部・10時
- 21日(日) 復活節第六主日(世界広報の日・献金)
- 25日(木) 教区修道女連盟総会
- 28日(日) 始良教会献堂記念日(一九八六年)
- 28日(日) 主の昇天
- 31日(水) 聖母の訪問

### 6月

- 1日(木) ホルヘ神父叙階記念日(二〇〇三年)
- 4日(日) 聖霊降臨の主日
- 5日(月) 三教区司祭合同黙想会・鹿兒島市・9日まで

### 門田 明氏の 鹿兒島とキリスト教①

#### キリスト教の 日本伝来

最近、鹿兒島とキリスト教の出会いと、その後の歴史に興味を持っている。それでしばらく、思いつくままに学んだことを書き留めてゆこうかと思う。

少し話が大きくなるが東洋にキリスト教が伝えられたのはいつのことか。そのあたりから始めてみたい。

川口一彦編著『景教』によると、景教の意味は大きな光、燃えて輝く太陽の意味で、永遠の光・世の光であるイエスのことであるとい

う。東シリアの初代教会が、シルクロードを通じて中国の唐に宣教し栄えたイエス教団だといふ。紀元七八一年、西安に景教碑が建立され、そこに「ペルシヤ人の医師リミツ」とあり、景教を伝えたミリスのことでないかと推測されている。このミリスは西安に来る四十五年前来日する。つまりキリスト教は、日本に最初、紀元七三六年に伝えられたかもしれない。

一方、仏僧空海は八〇四年、遣唐使船で長安に着き、密教経典を学ぶが、彼は景教碑を見、それを作ったペルシヤ人景浄と親交があったという。景浄はミリスの父と言われている。空海自身と景教の関係については資料もない状態であるというが、密教の儀式の中で十字を切ることがあり、キリスト

このように見ると、キリスト教はかなり早い時期に日本に伝えられていた可能性がある。十分の内容が正確に伝えられたとは考えられないが、広い意味で、漠然とした思想として、仏教を着色するような形で、人々の心に浸透していたのではないだろうか。

もちろんこの話は鹿兒島と無関係かもしれない。当時の日本の中心地、奈良、京都などでの出来事であろうが、鹿兒島はまったく無関係だったろうか。断言はできないが、絶対無関係とも言えない。八世紀、鹿兒島にもキリスト教の陰がかすかに差したか、好奇心をそえられる。(玉里教会信徒・ザビエル上陸顕彰会会長)

### 生きる 記憶を辿って

#### 許されなかった我が子の誕生

四十九年前のこと

「私はただ焼いてあげたかった。お墓に入れてあげたかっただけでですよ」と重たい口を開いたのは、ハンセン病療養所「星塚敬愛園」で生き続けてきた金本キヨ子さん(七十五歳)。星塚



司教も金本さんを激励

教会の信徒である。生きていければ今年四十九歳になれるはずだった我が子の埋葬を三年前にようやく済ませることができたという。「きちんとして下さっていたかと思っていまして」と切り出し、八月で「死産」と告げられた四十九年前の出産時につながる記憶の糸を辿った。

「泣き声を聞きました」「しばらくの間ですが、この胸に確かに抱きました」としつかりした口調で話す彼女。にもかかわらず、当時のハンセン病への偏見と国の施策からか、この世で生を生きることのなかった子となった。

#### 我が子の埋葬

埋葬したいと立ち上がった彼女は苦渋の選択をしなければならぬことになった。それは自らの持つ記憶を一時非難させ、「死産だったこと」に同意すること。それでも我が子のためにとその条件をのんだ。結果、埋葬許可が出た。

「解剖の痕が痛々しかった」と語る彼女は、顔をそとと撫でてあげたという。そして、着せてあげたかった小さな着物と一緒に焼かれた遺体が残してくれた僅か二本の小さな骨を、彼女の父と兄、そして強制連行

によって日本で働かされ、園で亡くなった韓国人の夫・福童(ふくと)さんの眠る墓に「福子」の名で埋葬したので。

この三月、彼女は厚生労働省に足を運んだ。それは全国にまだ百体ほどあるとも言われる「福子さん」と同じ境遇の今は亡き人た

#### 「奄美の使徒ゼローム神父記念誌」完成

編集委員 平 三國

奄美大島で五十年の長きにわたり宣教師牧されたゼローム神父の一周忌が過ぎた頃から「神父の記念誌を」という声が奄美の各教会から出ました。その声にこたえて記念誌刊行実行委員会が、二年前の六月二十七日に発足しました。その後、総務、募集原稿、写真資料、財務等の部会を組織

ちのためだ。でもその勇気ある行動は、彼女から平穏な時を遠ざけてしまった。国や組織の面目とあらゆる人たちががざす「正義」とも言い換えられてしまう何ものから逃げなくてはならなくなったからだ。同じ教区で同じ信仰を持つ者として、考えさせることの多い出会いだった。

### ザビエルさまの散歩道 ザビエル生誕五百年に因んで

昨年十二月三日から始まったザビエルイヤー、世界各地で様々なイベントが展開されているようですが、私たち鹿児島教区では今のところほとんど大きな動きはないかのように感じられます。日本に初めてキリスト教を伝えてくださったザビエル様をもっと身近に感じ、「熱き魂」のひとかけらでもいただきたいと思います。

スペインのナバラ州では「ザビエルの足跡をまると世界遺産に」と申請をしています。今年のザビエル上陸記念祭は生誕五百年祭に因んで若者男女、できるだけ多くの皆さんが参加しやすい企画のもと、五百人以上の信徒の皆様とともに祝いできる事を目標といたします。(玉里教会 藤山喜和義)

▼実行委員会から  
今年のザビエル上陸記

### 文芸

#### 俳句 (思川俳句会作品)

純心学園 山頭信子  
なすな花マリアの涙受難節  
踊り草お別れミサの傘の花

(評) なすなの花を「マリアの涙」と呼ぶ長崎の方言が佳作とした。

鹿児島 徳永ノブ子  
春風や見送る波止場人の波  
純心学園 田村鏡子  
新司教拍手の波が動き行く  
出水 遠竹陸郎  
花あやめ休耕田を埋めたり  
鹿児島 春山マリ子  
さようなら春に告げつつ院後に

名瀬 松畑義弘  
春浅き木葉返しの沖つ風  
(評) 「木葉返しの」が古典的で佳句

純心学園 川上 和  
汽笛鳴る乱れるテープ風にゆれ  
鹿児島 本城 愛

桜散る杜の石段夫登る  
鹿児島 龍門司真人  
五七調吾が来し方のみちしるべ

#### 短歌 (思川短歌会作品)

古仁屋 豊島忠司  
ゼロームが「うがみんしょうらん」と呼び掛けし病人慰問に皆華やげり  
(評) 「うがみんしょうらん」と方言で呼びかける笑顔が偲ばれる尊い句  
出水 遠竹陸郎  
夫逝きて二人の娘らと暮らす姉の送りし写真の顔は明るし

名瀬 林 明子  
ポラロイド今はやきつけてときめきがおどつてる星くすの中

明光学園 森 博伸  
寄せる波ひいてゆく波潮騒に抱かれて果てし白目敷

鹿児島 前田儀子  
読みすすむ近藤芳美の歌集を置き夜の灯のもと足の爪切る  
鹿児島 春山マリ子  
現実が胸痛む事多かりきでもまあこれを愛と呼べん

純心学園 川上 和  
甲子園勝負をかけたこの一戦校歌流れて歓声上がる  
阿久根 中津濱フサエ  
子等の愛遠く近くに感じつつ生きる力を祈りにたくす

(評) 「遠く近くに」感じ得る、子らの愛が伝わる佳作  
鹿児島 田平新太郎  
嘉例川の駅に偲はむ母の顔湯治の香り漂ひにけり

### 黙想会のご案内

自分、から始めよう、イエス

指導：W・キップス神父(レデンブートル修道会)  
日時：平成18年5月20日(土)14時～21日(日)16時  
場所：マリア山荘(聖ヨゼフ修道院隣)〒899-6404 霧島市溝辺町麓3616-4 tel0995-58-2994  
申込先  
西 : 0995-63-1943 (☎・FAX)  
宮地 : 099-262-4022 (☎・FAX)



父のアルバムや数人の方からのもの、そして私のものを利用しました。それに形見の品々は写真撮影

合わせなどに心血を注ぎました。写真は故ゼローム神父のアルバムや数人の方からのもの、そして私のものを利用しました。それに形見の品々は写真撮影

しました。数回の校正をし、ようやく印刷へ回すことができました。今年の三月十九日に完成させることができました。実行委員の方々の努力の賜物です。パソコンや印刷技術の発達した現代だからこそ、このような立派な記念誌ができたのだと思います。

今後は記念誌を読んでゼローム神父を偲び、そして信仰の糧として頂ければ、出版のために携わって苦勞した委員たちの喜びとなります。  
尚、三月二十一日にはマリア教会とゼローム館で「三回忌追悼ミサ」と「記念誌完成祝賀会」が行われました。(大熊小教区 浦上教会信徒)

### 「カトリック医療者の集い」ご案内

日時：6月25日(日)13時～16時15分 講師：郡山健次郎司教  
場所：鹿児島カテドラル テーマ：それでも 喜び 希望 感謝  
会費：一般 1,000円 学生 500円  
申込締切：6月20日(火) 申込先 純心大学 (Sr.高平 TEL0996-23-5311) 聖母寮 (Sr.沢 TEL099-253-6658)

